



「神代杉短冊箱(部分)」  
須田 賢司  
Kenji Suda  
(重要無形文化財保持者)

「深浮彫刻硯箱 日出乃松ト富士山の真景(部分)」  
相川 松濤  
Shoto Aikawa



真髓を  
探る

# 日本の 木工 藝



「杉疋合せ喰籠(部分)」  
中川 清司  
Kiyotsugu Nakagawa  
(重要無形文化財保持者)

2020  
3/6<sup>金</sup> - 4/10<sup>金</sup>

平成記念美術館 ギャラリー  
観覧無料 | 10:00 ~ 18:00 | 日曜休館

# 未来へ継ぐ 木を彫り楽しむ生活

平成記念美術館 ギャラリー所蔵の木彫工藝、

幕末の作家から現代の重要無形文化財保持者「須田 賢司」までの名品を展示いたします。

日本の縄文時代・弥生時代にはすでに現在の木工技術は完成を見ていました。

日本列島の豊かな樹木は日本人の生活と精神をつくり支えてきました。

指物、削り物、彫り物などの石器を中心にした刃物を用いて木を彫るといって技術を高めながら、

日本人は樹木の生命力を受け、時代ごとに日本独特の木彫を創り、様々な祈りも込めてきたのです。

明治以降の急速な西洋化と、第二次世界大戦後に大きく生活環境が変わってきた中で、美術工藝も急速に変化しました。

しかし、精緻な技巧に込められた日本の美意識は、今も私たちの中に流れて続けています。

日本の地で愛されてきた「木を彫り楽しむ感性の流れ」「美しい木のある生活」は今後も未来へと継承されていくことでしょう。



「神代杉短冊箱」  
須田 賢司（重要無形文化財保持者）



「神代杉唐櫃 飾箱」  
中川 清司（重要無形文化財保持者）



「短冊箱（黒柿内桐造）」  
氷見 晃堂（重要無形文化財保持者）



「樽造巴型鉢」  
岩崎 一甫

同時開催

## 浅井濤子・磯野宗和 盆石展



浅井濤子（石州流盆石家元八世）、磯野宗和（細川流盆石九代家元、林義牧派遠州流茶道十三代家元）のお二人の盆石を展示いたします。室町時代の初期、足利義満のころから始まった盆石の文化は、黒漆塗りの楕円形のお盆に天然石や砂を用いて風景などを表す芸術です。主に茶席や床飾り、また来客のおもてなしに用いられて発展してきました。

会場：平成記念美術館 ギャラリー 2階

## 平成記念美術館 ギャラリー

【お問い合わせ】 03-3426-1103

〒156-0053 東京都世田谷区桜3-25-4

開館時間 10:00～18:00 / 観覧無料

休館日：日曜・年末年始

【電車】 東急世田谷線 上町駅より徒歩10分

【バス】 渋谷駅バス停 3番乗り場「成城学園前駅西口」行 渋24（東急バス/小田急バス）「大蔵ランド前」下車 徒歩1分

【次回企画展のお知らせ】 ※スケジュールは予定のため、変更になる場合があります。

2020年4月17日（金）～5月22日（金）

『澤野新一朗 写真展 - 神々の花園 』 — この驚きを、あるがまま未来に遺したい。—

